

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第54号

2008年10月3日

<http://pweb.cc.sophia.ac.jp/s-yuga/asaj2/>

1. 2008年度総会・全国研究大会の御礼

代表理事 関根政美

2008年6月の全国大会は盛況のうちに無事開催できました。会長として関係者の皆様に御礼申し上げます。とりわけ学会全国大会開催を担当して頂いた追手門学院大学とオーストラリア研究センターの南出所長と所員そしてお手伝いの方々の皆様、有難うございました。6月上旬にはK・ラッド豪首相が急遽来日されたため、大会1日目夜のレセプションでの豪日交流基金サー・ニール・カーリー奨学金の授与式、2日目の第2シンポ討論者のおひとりが、ドタキャン、と相成りましたが、それでも大過なく開催できました。

また、基調講演担当のD・カーター先生(クイーンズランド大学/東京大学)、第1シンポ仕掛け人の藤川隆男会員と登壇者の皆様、第2日目の個別報告をされた皆様、第2シンポ仕掛け人の鎌田真弓会員と登壇者の皆様に各々御礼申し上げます。第1日目も第2日目も多くの方が参集されました。印象的だったのは、第2シンポの最後まで50名近い人が熱心に聞いていたということでした。渡辺先生もお元気で何よりでした。

最後に、会長挨拶冒頭でも申し上げましたが、今回の大会に対しても豪州大使館B・ミラー公使と豪日交流基金による人的・財政的支援があったことを深く感謝するとともに、その旨お知らせいたします。大会直後の京都大学でのラッド首相講演会も盛況のうちに終わりました。その準備に奔走された加賀爪会員にも感謝いたします。ご苦労様でした。次の全国大会までの準備や学会誌刊行、ニューズレター作成、新HP作成、大学院公開講義、シンポなど理事の皆様は忙しいことと思いますが、よろしく願いいたします。

2. 総会報告(2008年6月8日開催)

2008年度総会・全国研究大会は6月7日(土)に追手門学院大学、8日(日)追手門学院大阪城スクエアで開催されました。

(1) 2007年度事業報告・決算報告

下記の事業報告が決算報告及び監査報告(3頁参照)と共に承認されました。

第18回全国研究大会(2007年6月)を国立民族学博物館にて開催。

地域研究会は、関東例会(第1回:2007年10月)を慶應義塾大学において、関西例会(第5回:2007年11月、第6回:2008年3月)を追手門学院大学において開催。

AJF助成大学院プログラムとして2007年度秋学期に慶應義塾大学大学院で、2008年度春学期(開催中)に京都大学で特別講義を開催。

『オーストラリア研究』第21号(2008年3月)を発行

『オーストラリア学会報』第51号、第52号、第53号を発行

日本学術会議への登録手続きを完了。

第7期第1回および第2回理事会を開催。

日本におけるオーストラリア研究の発展に貢献したことなど当学会の活動が評価され、「2008年度 豪日交流基金賞」を受賞。

(2) 2008 年度事業計画・予算案

下記の事業計画が予算案（4 頁参照）と共に承認されました。

『オーストラリア研究』第 22 号（2009 年 3 月）を発行する。（会報 53 号参照）

『オーストラリア学会報』（年 3 回程度）を発行する。

第 20 回全国研究大会（2009 年 6 月）の担当校を募集する。（締切 8 月上旬）

地域研究会関東例会を秋季に、関西例会を 11 月と 3 月に開催する。

日本学術会議登録に伴い学会 Web ページをリニューアルする。

事業の活発化に伴う経費増大にあわせ、会費値上げを含めて財政計画を練ること

(3) AJF 助成大学院プログラム

今年度、すでに開催されている春学期（5～9 月）担当の加賀爪優会員（京都大学）および、秋学期担当予定の小林信一会員（日本大学）からそれぞれプログラムの概容が紹介されました。また、今後の担当希望校の募集告知がされました。

(4) オーストラリア日本研究学会（JSAA）との関係

JSAA と協力に関する覚書が交わされる旨、報告がありました。

(5) 学会メールマガジン

行事の増加に伴い、年 3 回発行の学会報のみでは告知が間に合わない実状から、学会メールマガジンの配信を準備中であることが報告され、登録手続きに対する会員のご理解とご協力についてお願いがありました。

3. 第 7 期第 2 回理事会報告（2008 年 6 月 7 日、8 日）

総会議事以外に、下記の事項につき承認されました。

(1) 紀要（バックナンバーを含む）の今後の販売方法についての検討。

(2) 次回の全国大会を学会設立 20 周年記念事業と位置づけ準備を進める。

(3) 次年度の収支予算書上、予備費が 20 万円を割り、さらに次期繰越収支差額が 0 円になることが見込まれるなど、財政上、今後の学会運営や活動に重大な支障が生じる恐れがあるため、今後、さらなる経費の適正化をはかる一方、学会創設以来、一度も値上げがされてこなかった学会費の増額も含めて、今後検討していくこと。

(4) 新規入会 6 名を承認する。

出席者 = 関根政美（代表理事）、有満保江、安藤充、飯笹佐代子、加賀爪優、加藤めぐみ、鎌田真弓、川口章、小林信一、塩原良和、田澤佳昭、永野隆行、橋本雄太郎、藤川隆男、松繁寿和、南出眞助、村上雄一、安田純子（以上理事、50 音順）

7 月 6 日に運営委員会が開催され、学会活動に係る AJF への助成金について検討されました。

< 2007 年 12 月 2010 年 12 月役員一覧 >

[代表理事] 関根政美

[副代表理事（企画）] 鎌田真弓

[全国研究大会担当理事] 藤川隆男、南出眞助

[プロジェクト担当理事] 関根政美、有満保江

加賀爪 優、永野隆行

[関東例会担当理事] 関根政美、塩原良和

永野隆行

[関西例会担当理事] 南出眞助、藤川隆男

松繁寿和

[副代表理事（総務）] 橋本雄太郎

[庶務担当理事] 村上雄一、塩原良和

[会計担当理事] 田澤佳昭

[広報担当理事] 橋本雄太郎

[副代表理事（編集）] 小林信一

[学会誌担当理事] 加藤めぐみ、有満保江

安藤 充、飯笹佐代子

川口 章、安田純子

[会報担当理事] 田澤佳昭、塩原良和

[HP 担当理事] 安藤 充、鈴木雄雅

[監事] 岡崎一浩、有満保江

[運営委員会] 代表理事・副代表理事・
会計担当理事にて構成

オーストラリア学会財務諸表

貸借対照表

平成20年3月31日現在

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産			
1. 流動資産			
現金	7,903	2,758	5,145
郵便貯金口座	733,782	804,681	70,899
郵便振替口座	103,585	165,745	62,160
未収金	0	125,530	125,530
流動資産合計	845,270	1,098,714	253,444
資産合計	845,270	1,098,714	253,444
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費収入	5,000	15,000	10,000
流動負債合計	5,000	15,000	10,000
負債の部合計	5,000	15,000	10,000
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産	840,270	1,083,714	243,444
正味財産合計	840,270	1,083,714	243,444
負債及び正味財産合計	845,270	1,098,714	253,444

(発生ベース)

正味財産増減計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,453	179	1,274
受取会費・入会金	1,110,000	1,050,000	60,000
雑誌販売収入	20,000	0	20,000
未収金	0	125,530	125,530
経常収益計	1,131,453	1,175,709	44,256
(2) 経常費用			
事業費			
大会及び研究会旅費補助等	154,520	151,290	3,230
記念事業特別会計繰出金	0	100,000	100,000
調査事業費	0	125,530	125,530
事業費計	154,520	376,820	222,300
管理費			
印刷費	905,100	779,700	125,400
会議費	150,000	71,593	78,407
消耗品費	2,285	15,859	13,574
通信費	151,992	190,290	38,298
謝金	11,000	22,220	11,220
管理費計	1,220,377	1,079,662	140,715
経常費用計	1,374,897	1,456,482	81,585
当期経常増減額	243,444	280,773	37,329
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	243,444	280,773	37,329
一般正味財産期首残高	1,083,714	1,364,487	280,773
一般正味財産期末残高	840,270	1,083,714	243,444
II. 正味財産期末残高	840,270	1,083,714	243,444

(発生ベース)

キャッシュ・フロー計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入			
受取利息	1,453	179	1,274
会費・入会金収入	1,110,000	1,050,000	60,000
雑誌販売収入	20,000	0	20,000
未収金回収	125,530	0	125,530
事業活動収入計	1,256,983	1,050,179	206,804
2. 事業活動支出			
事業費			
大会及び研究会旅費補助等	154,520	151,290	3,230
記念事業特別会計繰出金	0	100,000	100,000
調査事業費	0	125,530	125,530
事業費計	154,520	376,820	222,300
管理費			
印刷費	905,100	779,700	125,400
会議費	150,000	71,593	78,407
消耗品費	2,285	15,859	13,574
通信費	151,992	190,290	38,298
謝金	11,000	22,220	11,220
管理費計	1,220,377	1,079,662	140,715
事業活動支出計	1,374,897	1,456,482	81,585
事業活動によるキャッシュ・フロー	117,914	406,303	288,389
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0
IV. 現金及び現金同等物の増減額	117,914	406,303	288,389
V. 現金及び現金同等物の期首残高	958,184	1,364,487	406,303
VI. 現金及び現金同等物の期末残高	840,270	958,184	117,914

(現金ベース)

収支決算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

科目	予算額	決算額	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用益	600	1,453	853
受取会費・入会金	900,000	1,110,000	210,000
雑誌販売収入	5,000	20,000	15,000
経常収益計	905,600	1,131,453	225,853
2. 事業活動支出			
事業費			
大会及び研究会補助	150,000	154,520	4,520
特別会計繰出金	100,000	0	100,000
事業支出計	250,000	154,520	95,480
管理費			
印刷費	950,000	905,100	44,900
会議費	150,000	150,000	0
消耗品費	20,000	2,285	17,715
通信費	190,000	151,992	38,008
謝金	30,000	11,000	19,000
雑費	10,000	0	10,000
管理支出計	1,350,000	1,220,377	129,623
事業活動支出計	1,600,000	1,374,897	225,103
事業活動収支差額	694,400	243,444	450,956
II. 投資活動収支の部	0	0	0
III. 財務活動収支の部	0	0	0
IV. 予備費支出の部	200,000	0	200,000
当期収支差額	894,400	243,444	650,956
前期繰越収支差額	1,083,714	1,083,714	0
次期繰越収支差額	189,314	840,270	650,956

(発生ベース)

特別会計

中日交流基金助成事業特別会計

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

		円
収入		
助成金収入	2,587,366	
一般会計繰入金	0	
		2,587,366
支出		
交通費・宿泊費	1,245,842	
通訳	192,634	
印刷費	604,150	
レセプション	481,410	
事業運営経費	63,330	
収支差額	2,587,366	0

(発生かつ現金ベース)

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 会計処理の基準

平成15年3月に公益法人会計基準検討会から公益法人会計基準が公表されたことにより、オーストラリア学会においても平成18年3月年度から、公益法人会計基準に準拠した会計報告をすることとしている。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をしないものとみなした。

(3) 未収会費の評価

未収会費については、決算期以降かつ財務諸表作成時以前に回収されたものについてのみ資産に計上するものとする。

(4) 会費免除者に対する収入計上

プロフェッショナル・サービスの提供者に対して会費免除をした場合には、みなし会費収入とみなし謝金支出との同額の両建経理とした。

財産目録

財産目録は、貸借対照表の資産の部と同一であるために作成は省略した。

監査報告書

1ページから4ページまでの財務諸表及び注記を監査した結果、適正かつ正確であることを報告します。

平成20年6月5日

岡崎一浩

【お詫び】会計担当の引継ぎを期に、会計データベースの整備を進めております。その作業の過程で、複式簿記導入後の財務諸表に数字の誤りがみつけられました。出納帳簿および財務諸表の計算式等をあらためて精査しましたところ、誤りの原因は出納帳簿とデータベースのデータ連携エラーによるものと判明いたしました。記してお詫び申し上げます。なお、上記2007年度財務諸表は更新済みのもので、総会配布時のものとは異なります。また、2005年度、2006年度財務諸表の更新データは学会Webページに掲載いたしますので、よろしくご確認願います。(会計担当：田澤)

新刊書のご案内

青山晴美『アボリジニで読むオーストラリア もうひとつの歴史と文化』明石書店、2008年4月

ケイト・ダリアン=スミス、有満保江編『ダイヤモンド・ドッグ 《多文化を映す》現代オーストラリア短編小説集』現代企画室、2008年5月

Kato, Megumi, 2008, *Narrating the Other: Australian Literary Perceptions of Japan*. Monash, VIC : Monash Asia Institute.

ヘレン・ガーナー(石橋百代訳)『セクシュアル・ハラメント 性と権力の迷宮』明石書店、2008年1月

豪日交流基金より

去る7月25日(金)2008年度サー・ニール・カリー奨学金受賞式がオーストラリア大使公邸にて開催され、大学院留学・研究プログラム、オーストラリア講座・講義助成プログラム、出版助成プログラムの奨学金・助成金を計6名の方々が受賞されました。授賞式にはオーストラリア学会の理事の方々も多数出席しました。

収支予算書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

科目	予算額	前年度	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用益	600	600	0
受取会費・入会金	950,000	900,000	50,000
雑誌販売収入	5,000	5,000	0
助成金収入	0	0	0
経常収益計	955,600	905,600	50,000
2. 事業活動支出			
事業費			
大会及び研究会旅費補助等	150,000	150,000	0
特別会計繰出	100,000	100,000	0
調査事業費	0	0	0
事業支出計	250,000	250,000	0
管理費			
印刷費	720,000	950,000	230,000
会議費	300,000	150,000	150,000
消耗品費	20,000	20,000	0
通信費	190,000	190,000	0
謝金	130,000	30,000	100,000
雑費	10,000	10,000	0
管理支出計	1,370,000	1,350,000	20,000
事業活動支出計	1,620,000	1,600,000	20,000
事業活動収支差額	664,400	694,400	30,000
II. 投資活動収支の部			
0	0	0	0
III. 財務活動収支の部			
0	0	0	0
IV. 予備費支出の部			
175,870	200,000	24,130	
当期収支差額	840,270	894,400	54,130
前期繰越収支差額	840,270	1,083,714	243,444
次期繰越収支差額	0	189,314	189,314

(発生ベース)

オーストラリア学会財務諸表は、学会 Web ページでも公開しています。

4. 第7回地域研究会(関西)のお知らせ

日時: 2008年11月29日(土) 14:00~17:00 * 非会員の方も参加できます。

場所: 追手門学院大学 5号館8階 大会議室(茨木市西安威2-1-15)

交通: JR 茨木駅西口南へ7分 マイカル茨木横、または阪急茨木市駅西口前から、追手門学院スクールバス(無料)13:30発。ほかに阪急バス82・88系統(阪急始発13:35、JR経由13:45)もあります。

連絡先: 追手門学院大学オーストラリア研究所

: 072-641-9667 / FAX: 072-643-9476 E-mail: cas@office.otemon.ac.jp

会場はホームページでご確認ください。http://www.otemon.ac.jp/cas/

発表:

1. オーストラリア先住民ヨルタ・ヨルタの環境管理のための運動と実践

友永雄吾(総合研究大学院大学)

本発表では、南東部オーストラリアを舞台に展開されている川と森の環境管理にとともにヨルタ・ヨルタの人々の運動の内実を明らかにする。まずヨルタ・ヨルタの土地権回復運動を歴史的に概観し、ついで近年ヴィクトリア州との間で締結された土地と河川の共同管理合意の内実について、政府、ヨルタ・ヨルタ、その他諸利害関係者間の関係に注目し、それぞれの異なる立場と考えを明らかにする。これにより、当該地域におけるヨルタ・ヨルタの森と川の環境管理のための運動と実践に関する限界と可能性を探る。

2. オーストラリア首都特別区における多文化性に対応したケアの取り組み

CLDB 高齢者へのケアサービスから

奥田敦子(奈良女子大学大学院博士研究員)

ACT で文化言語的に多様な背景[CLDB]の高齢者とそのケアラーへの実践的なケアの取り組みから、個人が持つ文化を尊重したケアとはどのようなものかを考察した。現在、ACT の CLDB の高齢者への取り組みは、彼らの社会支援推進活動のため、特別の機関が設けられている。その役割は、CLDB 高齢者のサービス利用の促進と文化

による問題への対応である。今回の発表は、コミュニティと施設での多文化性に対応したケアサービスの状況と問題、そしてケア提供者としてコミュニティのボランティアが果たす役割を明らかにする。

5. 国立国会図書館・平成 20 年度国際政策セミナー「オーストラリア・ラッド政権の外交政策の展開 - ラッド政権の 1 年間を振り返る - 」のお知らせ

国立国会図書館調査及び立法考査局では、オーストラリア連邦政府の外交問題評議会のメンバーであるアラン・ギンジェル氏を招へいし、同氏に政権交代から約 1 年を経過したラッド政権の政策を外交政策を中心に分析し、今後の政策展開について講演して頂きます。さらに、日豪関係の現状と将来、日本の採るべき政策等についても、3 人のパネリストとの討論を通じて理解を深めたいと考えております。なお、本講演会・討論会は、国立国会図書館調査及び立法考査局の平成 20 年度「総合調査・国際共同調査プロジェクト：オーストラリア・ラッド政権の 1 年」の一環として行うものです。

日 時：平成 20 年 10 月 7 日（火）15：00～17：00

場 所：国立国会図書館 新館 3 階大会議室（東京都千代田区永田町 1-10-1）

内 容：

基調講演

講演者：アラン・ギンジェル（Allan Gyngell）（ローウィ国際政策研究所長 / オーストラリア連邦政府外交問題評議会委員）

略 歴：メルボルン大学卒業後、ラングーン、シンガポール、ワシントンで外交官として勤務。また長年、首相直属の情報分析機関である国家評価室（Office of National Assessments）で東南アジア問題を扱う。その後、オーストラリア首相官邸の国際担当首席次官補、キーティング首相の外交政策アドバイザー（1993-96 年）を務めた。1997 年に政府を離れた後は、様々な企業のコンサルタントとして活躍、2003 年にローウィ国際政策研究所の初代所長に任命され、現在に至る。

パネルディスカッション

コーディネーター：関根 政美（当館客員調査員 / 慶応義塾大学法学部教授）

パネリスト： 菊池 努（青山学院大学国際政治経済学部教授）

佐島 直子（専修大学経済学部教授）

添谷 芳秀（慶応義塾大学法学部教授）

参加申込：当セミナーへの参加を希望される方は電子メールにより下記へお申し込み下さい。

担当：国立国会図書館調査及び立法考査局 調査企画課 総合調査係

メールアドレス：chokiso@ndl.go.jp

定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。

6. 『ダイヤモンド・ドッグ』刊行記念シンポジウム報告 報告：有満保江

2008 年 5 月に、ケイト・ダリアン＝スミス / 有満保江編『ダイヤモンド・ドッグ 多文化を映す現代オーストラリア短編小説集』（現代企画室）が刊行されました。当短編小説集は、1970 年代の多文化主義政策導入以後のオーストラリア社会の変容を反映するものです。とりあげられた作品は、ヨーロッパ、アジア、中近東など多地域出身の移民作家、先住民の血をひく作家、また多文化社会に対応しながら生きる白人作家たちによるものです。翻訳は、ANZ 文学会関西支部のメンバーが行ないました。短編集の刊行を記念して、5 月 30 日 18:30 より、東京代官山のヒルサイドフォーラムにおいてシンポジウムが開催されました（主催：ANZ 文学会、現代企画室）。パネリストは、ケイト・ダリアン＝スミス教授、スニル・バダミ氏（作品が掲載されている）、デイヴィッド・カーター教授、アン・マックグラス教授、そして翻訳者のひとり佐藤渉准教授など。文化の混淆によって生み出される表現の未来について、活発な議論が展開されました。なお、当シンポジウムは豪日交流基金、オーストラリア・カウンシルの助成、オーストラリア大使館、オーストラリア学会の後援を受けました。

7. AJF 助成京都大学大学院特別公開講座（第2期）報告 報告：加賀爪 優
豪日交流基金助成による京都大学の大学院公開講座（2008年春学期）では、食料・資源・環境に関する経済的側面に焦点を当て、それと密接に関わる気象変動や貿易自由化の問題に関して、オーストラリア等の研究者による公開セミナーを開催してきました。これまでに開催した公開セミナーは、以下の通りです。

第1回目：5月24日（土）「気象変動の影響と農村環境の適応」 Dr Barry Brook（アデレード大学地球環境科学部教授）

第2回目：6月28日（土）「豪州における水資源と環境経済」 Dr John. Ward（アデレード・連邦科学産業研究機構,主任研究員）

第3回目：7月26日（土）「オーストラリアの農業におけるライフサイクル評価の適用と最近の新知見」 Dr M.ichelle John（カーティン大学助教授）

第4回目：8月23日（土）「西豪州の農地における生物多様性の保全問題」 Dr Ben WHITE（西豪州大学教授）

なお、9月27日（土）に第5回目（最終回）「アジア太平洋地域における優遇貿易取決とオセアニアの地域環境」 Dr Anna STRUTT（ワイカト大学経済学部助教授、アデレード大学 PhD）を予定しています。多数の参加を期待しています。

既に開催した第4回目までは、毎回50名近い出席者で、質疑応答の時間を延長せざるを得ないほど盛会でした。特に、6月9日にケヴィン・ラッド首相の京大での講演のイベントが飛び込んできて、これがその後の観客動員にも大きな効果をもたらしたようです。京大関係者や学会会員だけでなく、広く関西地域からの一般参加者も活発な議論に加わって頂きました。豪日交流基金やオーストラリア学会および追手門学院大学オーストラリア研究所には広報面で大変お世話になりました。深く感謝致します。

8. 学会費の納入について

本年度の会費を、同封の振込用紙でお振込みください。年会費は5,000円（賛助会員は10,000円）です。昨年度までの会費を未納の方には、その分の払い込み用紙が封入されておりますので、あわせて納付ください。 お問い合わせ：会計担当理事（田澤佳昭 ytazawa@dohto.ac.jp）

全国研究大会 個別報告者募集

オーストラリア学会 2009年度総会・全国研究大会は、6月13日（土）14日（日）の両日、**関東地方**で開催される予定です。（詳細は会報次号〔2月発行予定〕でお知らせいたします。）

個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、11月末日までに、学会事務局あて書面（メール可）にてお申し込みください（200字程度の要旨を添付してください）。

〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476 杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室気付
オーストラリア学会事務局

：042-691-0011（代） / FAX：042-691-5899

E-mail: hashimotobunch@mri.biglobe.ne.jp

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、事務局または会報担当理事までお送りください。（宛先：塩原 yshiobara@tufs.ac.jp）〔紙面の制約上、速やかに掲載できない場合がありますことをご了承ください。〕なお書評欄に掲載を希望される場合は、学会事務局宛に献本願います。**なお、4月初旬に学会誌最新号を送付いたしましたが、未着の方は事務局までご一報ください。**〔編集担当：塩原良和（慶應義塾大学）〕